筑前國續風土記略

特7
27

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』 請求記号 特7-27

ガラス使用

26. 8. 3

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号 特7-27

ガラス使用

筑前國續風土記略 全

特7
27

伊藤大八郎記

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』 請求記号 特7-27
ガラス使用

特7-27

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号　特7-27　　ガラス使用

篤太郎孫ヘ　九十翁錦窠

筑前國續風土記略ニ附ス

筑前續風土記略目録

福岡　御笠　怡土　糟屋　鞍手　下座

博多　夜須　志摩　宗像　嘉摩　上座

那珂　早良　席田　遠賀　穂波

特7-27

伊藤篤太郎記

尾張伊藤圭介之記

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号　特7-27

ガラス使用

目錄畢

筑前國續風土記略

貝原篤信編錄

福岡

福岡博多ハ其名ハ別なれとも城下ニ在て國の府邑なり東南ニ有る次城の内ハ本丸の西の追手つかたより町ハ大工町簀子町乃自至つかたりて東ハ那河郡警固村西ハ早良郡鳥飼村ニ属せり今の公宅も鳥飼村乃境内也此村ハ昔此名ハ福崎とて民家おほり下警固村ニ属せり然るニ此地をと福岡と名付玉ひ初ハ先公黒田右近太夫長政公ハ初メ近江國ニ在て備前の國邑久郡福岡の里よりうつり其後ハ下野守重隆

公すまへる所の地に住せ給ふ故に　如水公長政公
此城を築き給ふ時は直に先祖の住給ひし本
の里をおぼして福岡と
名つけ給ひしとぞ

福岡城　長政公慶長五年当国を領し給ひ其年
極月御入国し給ひ此時は名島の城に住
給ひ慶長六年より此所に城を築き初めて数年
の月日に城も漸く成就し侍る然るに遷府(?)
遂やく立し給ひ初て此国の年より元禄三年に
至りて凡九十一年御城を築き初給ひし慶長六年
より元禄三年まで凡そ九十年を経侍るとぞ

東照大権現宮　荒戸山にあり
早良郡に在り慶応元年　国君忠之公建立し給ふ
社領三百石御寄附宮司は台宗松源院内にて是を司る

高照山福祥寺と号す嚴山の末寺なり石の座(?)
貞享三年七月国主光之公創立し給ふ

源光院　歓喜山安穏寺と号す又早良郡にあり
此寺は　大猷院公　厳有院公御位牌有
慶応二年　光之公御建立寺領三百石御寄附有
台宗厳山末寺也初は巣院にあり寛文八年火災に
かゝり悉く焼失せり翌年　光之公荒戸山の　警固大
ふもとに移し建立し給ふ

明神　東院にありし社は住吉志賀の神と同時に出生
し給ふ八十柱津日神大禍津日神神なりと云
伊弉諾尊小戸の橘の檍原にてみそぎし給ふ
し給ひし所の神なり日本紀神代巻に見えたり神功皇
后の異国御征伐の時御船を警固し給ひし故に警固
大明神と名つくと云昔は今の御城内福崎に鎮座有

しかるに慶長六年 長政公此御城を築き給ふ時下
警固村乃山上に移し給ふ 忠之公乃御座所となりし時
荒廃し給ふ 慶長十三年 長政公今の社地に移しまゐ
らせ給ふ 小鳥大明神ハいにしへより此地に鎮座の神
なり 山城国下賀茂小鳥の社と同神のよしなり 宮司
吉祥院ハ長政公此所に神社を造立し給ふ 寛山と号する
法印ハもと允之もと別下の関阿弥陀寺の住持なり

鳥飼若八幡

早良郡の内にあり 八幡ハ中社 左ハ宝満
神 右ハ香椎大神なり 神功皇后の新羅
より帰り給ふ時の旧跡の由云伝ふ むかしハ鳥飼村の内に
有りしを十三年今の所に移し奉りしとなり 鳥飼村
妻の内 昔此御廟の跡に神木乃松今もありとなり 紅葉原

八幡

早良郡西新町 昔ハ菊群 橋本村に在し 此所に鎮座の時
吉祥 光之公の御座所となり 寛文六年 橋本

との地より川を越え此社を御殿等新に造立し 神殿を
安置し給ふ 山鳥享二年 右の鳥居をも立 左右に神功
皇后 宝満大明神なり 宮司 西光寺を 忠之公寄進
三年 橋本乃社を造立あり しか寛文六年此地に移さる

紅葉松原

元和四年 長政公の命により 黒田和泉守
織部等に命し 当所荒戸の西乃町より
追り早良川此方千潟の所ハまく松を植えしを給ふ 菊ハ
此所の民姪町又ハ唐人町の内乃士町奉屋敷なりしまゝ
なくて皆松原なりし 忠之公此所右の二所ハ人々の屋ゝ
ろとなる 但紅葉松原も廣し 此原此辺八幡是也
記に見えたり 蓋古乃貴きよう見ゆるなり

圓應寺

如水公乃夫人照福院君 慶長年中和多
此地を給ひしを創立し 後に照福
院君の御墓所となる 此位牌并に画像あり 寛永三年

忠之公より寺領百石寄附し給ふ
鎮西流の浄土宗なり

少林寺

長政公之夫人 大涼院君の
御位牌有之　京知恩院の末寺鎮西派の浄土宗なり
慶長九年　長政公初て此寺を建立し給ふ
開山東順下総国の人也　大涼院君御葬此寺に
寛永十三年　忠之公より寺領百石寄附あり此寺に
台徳院公之御位牌　忠之公より御立置　又忠之公の
妹柳原式部太輔忠次の御内室梅雪院の御位牌
御墓も有之

水鏡天神

福岡此郭の内南の橋口にあり此社
有之　本四十川の辺に神とし云此邉の川を
四十川と名つく昔菅丞相年十七歳まて此地にて自ら御姿を絵
かゝせ給ひし時此水に御影をうつし給ひ和歌の額あり
其御鏡ようつし給ふ我容　四十八ヶ所の内
よし伝ふる故に四十川と名付しと云伝へり社僧の事は同上
観音院と号す

若宮明神

荒院の所の内にあり住吉
大神の若宮なり此権現なり
むかしは毎年九月十三日に住吉乃神輿当社に渡り給ひ
祭礼ありしか今は十三日に勝ると渡御も祭礼も住吉と同日なり
此日住吉神輿此所へ渡りなし
社僧は真言宗正覚院と号す

大長寺

西山流の浄土宗なり此
寺に美濃守職隆公御位牌并御画
像あり　初め黒田宗心の領地那珂郡一州村に職
隆公の寺を立て心光山西岸寺と号し寺領五十石寄附
宗心自ら願ひて住す元和三年福岡の海辺大長寺
に住持なりし時一の瀬の西岸寺の僧を此寺にうつし
宗圓公の御画像御位牌も大長寺にうつされ山号を
改め又同じ山と号し寺号を改む貞享元年八月
廿二日宗圓公百年忌に　光之公より大長寺にて法

云々にて　安國寺　禅寺曹洞宗なりけるこれハ古ハ安國
寺と云　中津にありし　此所ハ筑前の國の
住山院を寺とし爰に移せし　金龍寺　曹洞宗なりむかしハ
地なり寺なとも川　怡土郡高祖村に
これあり　原田彈正興種永正五年創立ス　寺ハ文明十六年
此寺を荒戸山に建立す　慶安元年　東照宮を荒
戸山に御建立の時此寺を　浄念寺　浄土宗で寺也
香椎松原此内にうつされし　七年向暑
徳栄寺　真宗西本願寺の派なり此寺の住僧　如水云
此所云此此所を寺とし博多ニより当所に移
転しけるを博多磨　光専寺　莱院ニ有り古ハ宗西本願
乃場をいふ　乃派なり寺山を浄土云
勝立寺　日蓮宗開山唯心院日忠京都妙覚寺より下
慶長八年博多妙典寺にて耶蘇の僧ト
宗論して勝負有　長政公よりて此寺地を賜ひて
初て建立せし　宗論に勝て立る寺なれバ寺号を賜
ふ　香正寺　日蓮宗なり　萬院ニ有り開山日延朝
鮮國の產也　寛永九年此寺を創
立す

那珂郡に属せる町なり福岡に並へり

博多（ハカタ） 西州乃廣府也

東長密寺 忠之公を此寺に葬りし其墓其位牌其畫像および弘法大師唐より帰朝乃時此寓居にて弘法乃遺像なる故大師堂と云忠之公より寺領二百石寄附し給ふ

櫛田社 平[?]記は此社の支配にて相殿に天照大神并祇園の神也之六月十五日は催し山にて祇園乃祭也

綱敷天神 昔公左遷乃時神の湊まて船より上り給ふに其所乃海人とも綱をたぐりていさりあるを志きて備へまゐらせしに志ばらく休み給ふ後此所に社を建今も綱やしきとつなぎと云つる宮を

神に攝津國須磨よりも御影村よりも
其前にも有り皆海邊なり

聖福寺　安國山と号す　源頼朝の
時開山千光國師明菴榮西入宋し帰りて後初て此寺を
建立す後鳥羽院より扶桑最初禅窟と宸翰に摸させ
られし額を給ふ三門にかゝれる額是也今の六丁は小早川
隆景の建立也昔は僧房甚多し今塔頭十四區有り慶
長六年　長政公より
寺領二百石御寄附し給ふ

承天寺　萬松山と號す開山聖一國師圓爾なり　四宗
院の時宋より謝國明といふ者博多に来て初て此寺を建
國明が墓は承天寺の東道の側に有り其由なし　長政
公より此寺に寺領百石御寄附有　先國主小早川秀秋の
時の側に海なりし塔頭諸　四十三ヶ所は十四區に及べく

妙樂寺　石城山と号す開山は月堂和尚諱は宗規大
應國師の弟子也正和五年妙樂寺の開山
に此寺を創立有て塔頭三區有し此寺昔は博
多の濱にありしか遭るに蒙古賊襲来の時ふせぎのため
に石垣をつきしかは石城山と号す天正十四年
薩摩の兵来て博多を焼拂ひし時此寺も
焼失す　長政公入國の後今の地に移る

善導寺　終南山　開山
廣誉上人鎭西善導寺を再興の後文治九年此寺創立
す後土御門院の御時永享御祈願寺に御由緒有
頃は禁令有て此外古き文書古畫器物甚多
寶剣の多きこと國中第一也

稱名寺　博多にあり
他宗にも又稀なる由し　いみし

名阿る寺也　一遍宗也
古家乃書状数〻通在之

龍宮寺　冷泉が所にあり
名わかる寺也

那珂郡　日本紀ニハ儺縣とかけり

博多（はかた）　袖の湊（みなと）　博多ハ古昔より傳りて舩の泊里
し所也近代ハ砂せきあきて小湊と
なる又昔ハ比恵乃川博多乃北を流れ住吉ニて
博多乃南を通りて那珂川と乃しとや今古河の跡也
在り博多の北より入海なりしを即袖乃湊の北の入口なりと
なや袖のみなとなりし　荒津（あら）浦　海　志賀山　此嶋民家及
なる名付しまゝや　崎　浦　田畠多し
須人も　千賀（ちか）の浦　葦嶋（このしま）　濡衣（ぬれぎぬ）乃墓　箱崎　雲原
なし　此西ニ有り

右名所

第萬葉集二十一代集夫木仙木名寄古歌有り
以下の名所ハ残りなく国名所の事類聚名寄

ま詳にものす須が為てに略す筑前

名寄に既にのぶ行き　**住吉社**　底筒男　中筒男　表筒

男の三神神代に至りて顕はれ給ふ日本紀にもみえたり摂州の住吉へ

此後の跡なるや昔より社領多く公家武家尊敬多き社

人を冨貴なりしや　志摩　志賀乃皇神なり

等にも此社人の名見えたり　**志賀社**　凡て住吉と同時出

生の神　底津少童命　中津少童命　表津少童命

三神なり有名神なり

日本紀神代巻に出たり　**勝間神社**　志賀の宮にありて表津少

童命乃社なり　三代実

録に載　**崇福寺**　横岳と号す　如水公　長政公　前市

より　正高政公　後前正之　綱公　忠之公

夫人蒼照院君　光之公乃夫人寛光院君乃此墓所あり

けるもとは此筥崎横岳にありし元亨釈書に見えたり　芸孫名あり

寺なり大應国師始て是を開基す　長政公寺領

三百石此寺附す其後八九年の間横岳より今の地に移し

あり十里松乃内にありし諸堂皆　長政公の建立なり

三門は　光之公の建立　箱崎に

開山堂は崇井宗室建立す　**馬出町**　近し　**山王**

権現社　比叡村にあり山王を勧請　**春日社**　春日村にあり

なし　ゆへ比叡村と云　太宰府前立

春日原　春日村にあり東西十二町南北　高宮村

二十丁もあり平なる原なり　**岩屋**　のみしよ

り大宰府の石窟なり窟内観音の像を刻ありゆへに俗にいふ

窟観音と云近年ハ人の手にもありし清く作りありしかに

佛殿立て下り寺つくりて坂に石階をもふくみも開

ける乃僧つくさにけり此いにしへいかし　住吉社今時

人の世なりしよりの事なるへし上古には宗像野と云
國中ノ石窟ハ皆かゝる事なりしを以て見るに此の二ツも
大抵ハ穢しある也南向也　平尾村西の山

百塚　上にあり

剱塚　東光寺村乃近邊にありていにしへ城ありし所
此城址をめくり廻りに堀あり

上白水村大塘　大塘也　國中第一乃

岩戸河内　片縄村にあり

上。安徳村にいりて見る凡十村あり村の名

仲村　五郎丸　松木　後野
東隈　西隈　安徳　中原
梶原　片縄なり

迹驚岡（とどろきの）　安徳村にあり此岡乃上にあり

岩戸の郷栗田杙寺とての跡也安徳天皇行宮の跡にこれあり平家物語盛衰記等にあり

ける事筑紫の形勢を見るに此の二社也此岡此上より見下す
居盤此田乃ことし長さ八九間上の廣さ東西百
八十六間南北百五十間あまり今ハ此所の原と號す
云ふ本裂田（サクタ）の溝（ウナテ）河是雷乃とゞろきおちて溝をひら
きし所乃跡なりとぞとゞろき此岡とも名付たりし　裂田（サクタ）此
日本紀神功皇后紀に見えたり

溝（ウナテ）　安徳村とゞろき此岡の東にあり大きにしあり小溝にて
ちいさき溝なりといへりしに岩戸をとおのこせる処
ありといふ山の大溝なり神功皇后の御時堀也
見ゆる事日本紀に見えたるを見よ

山田村一之堰手　神功皇后乃ほりきせ給ふ裂田（サクタ）の
溝（ウナテ）の本なり廣さ八十間あまり
なりといへり下流の田十三村にかゝる

鮎淵　同村の南の川の南の
かゝるにも…　ふかき所也　淵山

をしけるなりけるを　轆轤の名なるとなん　九千部山　昔
河内寺より出家の名大夏河の時出川
宝上人此にこもりて法華経九千部　不入道乃瀧　不入道村
読みける寺乃石塔あれは名とく　一乃瀬
其上見奥の守護の入道なりしとや　一の岳　村
背振山乃麓也　見えなり
鹿化尾山　同上　虎ヶ岳　同上何も高山也　成竹山　がくめきとも云
一瀬の大岩　並　瀧　岩此おくの河内難所也　四ヶ国
畑　岩戸河内乃おく山中にありての道　埋鐘　成竹
一の瀬此四村にかの一村也　南畑と云ふ里より山
を越りあれは又名箇の河内　戸板越　南面里村より
隣の記あり　板屋村へ越る山

山乃ほとりの下は　見落　滝あり断河内　五ヶ山　岩戸の
大岩河内　小河内村　川上流
山の内の五村あり　版五ヶ山といふ　緩え　道　枝折
奈の河内　大野　小河内村　小河内乃むこへの肥
前国神埼郡西小河内村也小河を一隔てより同しく
山谷の中にあって　同村の如し　小河内乃　川上の早良
郡板屋村也

御笠郡

神功皇后羽白熊鷲をほろほし給ひて香椎宮より松峡乃宮にうつり給ふ時飄風にはかにおこりて御笠を吹おとしけり時乃人其所を名つけて御笠郡といふとなり

日本紀にみえたり

鎮西 都督府とも太宰府とも云又西乃都ともいふ一里斗観世音寺村の西に築山とて小山あり是西北四乃中より太宰府の跡なり大なる礎多く存す都府楼の跡も其山にあり其南に大門の跡 竈門山 又法満道乃山にありの御笠山とも云俗に竈門山ともいふ民歳内諸民此山をおかみ凡の此山に似たる佳景なしといへり 山上に竈門神社あり陸にあつ此山に岩屋七所あり皆見所あり是を以て太

岩ありし山中に春は桜花おほく秋は紅葉かさなりし篠
観なりし　古歌に　春はもえ秋はむかふくれなゐの山　安楽
三種去りしむもみちをまたすや
寺　天満宮也　地なり　染川　又ハ染川とも　宰府　石踏川　宰府　思川　同
染川　通古賀に有を一説に加摩郡　白川　宰府の二日市に近　染生村に有るを正とすと云　華
橋　天神御旅所に近し　苅萱（かるかや）乃関　通古賀村　御笠杜の東にあり今　維堂乃隈
流れ不足ゆ　水城　大化天智天皇の時きづけりし日本紀にみえたり　東の土手　百余間　西乃
土手二百四十間東西乃土手　間土手の堤ひ処一所ハありて土手の根まで十五間高サ四間ありしなど
水をたくへし由なり　他の附かる国かる　大野山　下の城　又太城山
大野山の頂を云由萬葉集にも　城山　山口村の上にあり　三代實
録にも四王寺山乃事あり　録すと此山の支何り
万葉集にこの名みえしよめるも城山や此山　昔は僧　湯乃
坊ありしよし　今は一寺も古跡なし
原　竈門山の北谷に有ものし　苅萱塚　野山　河
湯在し跡今も有り　なり　又苅萱城此　譯ありて　何も名所
むかしは宿在し来此山へ通ひしや苅萱塚此　原山　宰府の乾
むまやの事　萬葉集にも見え多も　在昔は僧
坊多し四王寺此別所なりしと云　今は寺なし　知やすし
中比まで僧徒は宰府乃社僧に加て今も原八坊と云有

名所

竈門神社　神武天皇此御母玉依姫也　八幡也
祝詞宣にかまど乃歌は秋がたむ
まくなきし海をなだに有る細あり鏡なり　此神の由也
社右山乃頂にあり今山上に山伏乃舎三十余坊有り昔は

山下有智山に寺ありと云

有智山寺乃跡　宝満乃山下内山村に有り　昔ハかまと山に在りし伽藍

東谷北谷内山三処に居住の僧徒三百七十坊ありしと也　近世迄礎も段々とゞまる礎石有　今は混雑中山上に有りしと

大宰少弐資宅跡　内山に有る宝満宮乃こゝに塩二ヶ所土手二ヶ所有り少弐代との館の跡なりとも里人ハ古御館と云ふ

松ノ峡　少弐宅此跡の上にあり　神功皇后の行宮ありし跡　日本紀に見えたるも

佛頂山　竈門山乃頂にてある也　竈門山よりも高し　いまだとも山の奥の院と称す　開山心蓮上人の墓山のいたゞきに有り

小野　紀光ると云寺跡あり　其名羽埴の皇子吉誉法眼の旧跡也　此処

紹翁が挟仕候ふ見えし　竈門山此所より小谷に有りく

石塔　内山村にあり　鍛冶金剛兵衛盛高ヵ墓也　紹翁ハ名法名也　石塔ハ刀此中子(ナカゴ)乃形なり

四王寺山　四王院ハ古昔に見えたり　今も四天王出ると云　昔ハ大寺にて伽坊も多く般若寺乃地なりしと云ふ　寺跡も此山を大堪山とも云　又鼓乃峯とも云ふ　山号圓満山

宰府　社僧社職乃家多く民家多く今いふ町也　此筑紫乃里といふ

天満天神社　宰府安楽寺なり乃本社ハ豊臣(トヨトミ)秀吉公乃時国君小早川(コバヤカハ)隆景此建立なり　楼門ハ其後石田治部少輔三成当国代官の時建立て　其外の諸堂ハ黒田如水公御建立　石の橋柱橋桁三所あり　光之公御建立　又橋を過ぎ石の鳥居も古来より誰人の建しと云ことを知らず　前の石の鳥居ハ元禄九年に立　西に有り　橋の近きに観音此塔有り　是ハ近代の兵火に焼け上や候　古来有きしちるき塔也　御代有り又橋之有り　文庫有之　神前に飛梅有り　紅梅也　其外紅梅白梅多し

都府楼乃跡　観世音寺村此所西につき山の西にあり　東西十町四方南北六町

十四

大宰礎三十餘有大社の
詩有りけり

學業院乃跡

觀世音寺村ニ有り 昔ハ學校也たりし也今も此名残れり 古へ吉備大臣唐より持来られし先聖先師乃像を此地ニ安置有けり此時より元旦有し又百餘國より来りし書生ニ此地ニ而先聖先師の像をうつさせられ諸国を連行の大学寮ニ献したまへるよし 江家次第ニ此注有と見えたり

觀世音寺

清水山と號す是も此後ニ清水有り源氏物語ニも此寺のことを書しハ此寺也 此寺ハ天智天皇の御時建立戒壇ハ昔日本に三ヶ所の一也 此寺むかしハ大なる堂有りしか 承政の時梅西乃中ニ焼うせけるを後佛像をたのみ也へく小堂を立置ける 近年又本堂を立仏像を修造して有 戒壇堂と甚ぶ院有り昔ハ此寺子院多かりしと
今ハ一寺なし

國分寺乃跡

國分村ニ有り薬師乃本尊有り 礎有り礎より講堂大塔の跡礎有り居寺の跡有り礎の

横岳

昔崇福寺の有所也今も跡有り此寺を箱崎の松原の内ニうつし給ふ

秀吉公御茶屋跡

觀世音寺乃邊ニ有き也

小嶽

大石村乃上の山也竈門山の下ニ有山也 山上に伊豆権現の叢祠有りしを今ハ野乃外記入道ト申者殺之有り

大石

大石村ニ有り 大なる石也

天判山

菅丞相此天ニ訴へ給ひし所也 沖洲劔瀬ニ有 ハいの天たりし所也天拝山ニ有り

温泉

湯の町ニ有 町有り是を湯の町といふ 温泉ハ四國ニ有り是を武藏村ニ有り 櫻溜有り ニ塔并家ニ

武藏寺

薬師堂有り武藏村ニ有り 寺ハたびたび火ニ逢ひ 四箇畑 廢たり

竈門山の西ノ下深谷此内より四村ニ大石寺常楽寺香園由
須原といふ 由須原ハ谷の内ニすくなきなし 是より頼波
北谷口村へ（一本道）ありて米山越と云 昔大宰 平等寺村 山口村の
府よりこの道へゆきしといふ道なり
おく深山乃内ニ寺あり 昔平等寺と云禅寺也 今もその名
有 福岡より六里にて筑後肥前国國境に近し

十王堂乃跡 塔原村ニあり 大塔 今ハなしといへり 高橋紹運乃墓 紹運ハ深

七郎 法名也 天正乃時 宝満と岩屋とに城ありて
岩屋此城跡にあるなる墓なり 針摺 天満宮 三笠郡此針
二日市北山上ニ首塚あり 又ハ石あり此
村より山乃方乃ゑハ 博多へ 御笠郡此方のゑハ 筑後川へ
御笠郡此續命院村 小野岑守が建てし 也 昔 九国二島より訴訟のため大
ほどや

宰府にまうでし人の内貧窮なる者或ハ病ありて大宰府 此
院にて扶養せしめ あるよし 續日本後記并類聚
三代格にみえたり 今はいやまりて 俗
明院と云 村の名のみ残りて 跡はなし 筑紫神社 原田村ニ
在 本朝 十九神 筒井 清水の沸出るみや
乃内也 筒井村ニあり

夜須郡　神功皇后乃羽白熊鷲といふ賊を殺し給ひて我心安しとのたまひし所なれは安と云
よし日本紀に見えたり

安野　名所　山隈山北ハ小石原里民呼て七板原
方一里ばかり山隈原ともいへり

於保奈牟智社（オホナムチノ）　弥永村にあり筑前十九社乃内なり
日本紀に神功皇后新羅をせめ給ふ時
乃ち大三輪乃社を立て刀矛を奉りたまへは軍衆自ら集り
即此社なりと云大神（シホガ）大明神と
夜須郡乃惣社なり　栗田八幡宮　神功皇后御[illegible]
の中宮にて砥上神社　夜須西郡の惣社也砥上村にあり
の一也　中は屋根と称し神功皇后の
古廟也お殿東ハ住吉西ハ八幡也中津宮なり夜須郡の

郷の名や順和名抄　砥上山　高山　砥上村
に久しく名ありし　砥上上宮　の山の上に
旧記撿乃文といふ岩倉より神功皇后御陣処のより　目配（くばり）
里人いへる古　神功皇后を祭り処とて今は社あり
砥上上宮乃東の山やまた　又　山隈原　山の上山下に広き
神功皇后御陣処の由里人いへり　原ありて野の
東ある山上まで　千間溝　上高場（たか）村にあり　甘木町　民家多き
筑後さかひなり　長サ半里余
なり本国の内まで姪濱につぎて毎月九度市立有り
筑前筑後肥前肥後豊前豊後まで諸国に隔別の人の
よりて来る　想像の外にて諸国に通ずる要地なれば商人
多く住まりて諸貨を交易する　就中福岡博多姪濱
より魚塩をおほく持来りて商ふなり　又筑前より自の数国
の内海辺遠き所まで海味多くは是れより買て便とせる

凡博多より甘木の間人馬の往来多し　是海道乃外他也
又は此道のごとく人多き此往来多き処なき　秋月谷口　依井村
なしといふ一里
此村より東の方秋月まで凡ての間に広き谷あり谷中にある
村数凡十一　田畠乃高八千二百三十石余　秋月より出港は
右の山下にある村　長谷山（ちやたに）　甘水（あまみづ）　楢原　隈江　佐也
なり　秋月より出れば左の方の山下にある村　野鳥。湖。持丸。
普提寺。大隈　依井や秋月の　秋月　昔大倉姓秋月氏
私の迄より佐ともまで　路程一里八町あり　の宅地なり殿屋
敷と以て秋月氏乃里城は秋月町の艮荒平山にあり
本城は古所山や天正十五年秀吉公筑紫征下向の時此
国を小早川隆景に賜ふも　秋月種実（たね）は此地を去（さり）て日
向に財部に移る　黒田甲斐守長興（興）公此地に封じて
寛永元年秋月に居宅を立て家臣の宅を工商の

所に属し潮になくなりし長享年より元禄九年まて七十三年になる
上秋月には八幡宮あり秋月の北中に寺八何れも古八寺には
毛頭なし此由緒有る石塔あり　其年号は此先位牌に
墓あり大涼寺は大涼院君　秋月に有る秋月氏
の法位牌由墓何れも此寺に在るに付きて頃　荒平山　の里城や和名ないし
遐迩の　大龍寺跡　秋月氏先祖の　荷持　より　秋月のおくにあり
所や　の墓也や　羽白　熊鷲ある住
し処なるへし日本紀神功皇后　秋月野鳥村の
紀に見えたり今は地名をとくかくや　古所山　上にある古処山也
山上に白山権現の社あり権現の社下に秋月氏城跡あり
この山上の大岩に蜥蜴（キサガタ）多し此後に岩屋あり奥の院
と号す降龍ありあり
江川　秋月の北川上深山為谷の内に何れも谷中也むし
上秋月のおく上流に在七村何れも皆江川一村の枝
村なり下より上への次第　下戸河内（シモトカハチ）　尾根（シハラヒ）　井口　六河内
河野（カウノ）河内　鯰通り　栗河内　右七村の間一里半何れ
栗河内より塔の瀬に一里　塔の瀬より上への小石原迄
一里秋月より小石原迄四里半あり江川の川上も小石
原也深もより小石原の奥まで谷中の長さ凡六里何れも
何れも国中谷ふかき所見えたり　鞍手の大貫畑村
嘉麻郡の古処山上座の宝珠山佐田山三笠
の平等寺皆こまて　につぎり

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号　特7-27
ガラス使用

早良郡

生松原（イキノ）　此松ハ神功皇后新羅をせめより帰り給ひし
時此所にて松を地にさして我此度異国を
平けば此松ハ此土いきつくべしとのたまひしに果して其松生き
ぬれハ生松原と云由里人かくいひ伝ふ又武内の命にかゝり
て祀りし者故此地に真根子（マネゴ）の社も此生松原乃内にあり此松原
横四町長十二町斗あり根子（ネゴ）の
事ハ日本紀に見えたり

能解浦（ノケ）　泊河崎にあり　【右名所】

背振山　脈山の郷板屋村より行く山上に神社有高山なり
天気清明なる時ハ是より朝鮮国見ゆる故
背振ハ扱近く見ゆるや一名今龍山と称し又白山津山
と云山上に龍池の跡あり昔ハ東門寺と云大寺有て天台
宗也坊中三百坊ありしと云山の西乃方ニ三ツ跡あり

今も僧坊あまたあり此社のこと三代実録にみえ又性空上人
此地に居住のことも朝野群載元亨釈書にみえたり

酒盛山 椎原村にあり 毘沙白髪 脇山村にありといふ山也 云山也

荒平山 又あら平山ともかく此山西畑村より重富村の上まで
わたる事一里ばかりある高山にて是けはし山也油山に
はなれて有 西油村の上なる小田部氏が城山なりて荒平と云
此もとの山よりつゞきし所城山なり荒平山ともいふ城を
のち荒平といふありしとぞ 何況

西油山 昔此山の所にも高所に龍樹権現の社ありて其下に
東福寺といふ禅寺あり三百六十坊ありしと云今
一坊もなし其跡あまたありて後近代は西油
山村のかたはらに社あり

西油山塚穴 多し 東油山 僧房三百六十
うつりたり

坊ありしといへり今は一寺も無し寺号を泉福寺といふ禅宗也
東福寺の末寺なりしと云今は観音堂一宇あり此
上に油山といふ高山あり

神松寺 片江村にあり 軍家の仕敷書探題
なし 荒領主の證文等おほく有しが今はなし

長樋 桧原村此地にて樋のやうなりしより号す
下数村の用水をひきて此の郷に流す

古平寺乃跡 桧原村にあり 大寺の由

四十塚 檀原 野芥塚穴 民家の早良郡に
有ぬ 茅て筑前国の中にあり諸国にもおほし
其上古いにしへ人此家居なくして穴に住し時の穴居なる由
皆大石を以て重ねつき南に向て周易にも上古穴居而野処
延喜後世聖人易之以宮室とみえたり

飯盛神社 此社は伊弉冊尊を祭る宝清王社は八幡大
神の由諸神祇にみえたり昔は大社のよしいふ由

〻遠数村ハ此神社 飯盛山 飯盛村にありて形
のあれや 飯を盛るが如し 花崇瀧
石竈村にあり国中第一の大瀧也 昔花崇といふ 海邊石垣 昔弘
安の比此瀧に修行ありしとなん あり
比蒙古を防ぐ人々の築きたりし由 紅葉松原乃 小濱生の松
至今津の海邊にありて あり 福岡博多乃海邊にし石
の築代 姪濱町 国中ことに福岡博多の外に 柏濱 姪濱
遠しといふ 民家の賑はしき所也 にあり
神功皇后の 淡川探題墓 姪濱浦 探題英時城跡
御旧跡也 山上にあり
姪濱村の東鷲の尾など 姪濱北崎堂あり 鉾の御津 生の
山の内 莫は 河利 小戸 松原
まれなる花としし 鷲尾山 姪濱町の東にあり山上に鷲尾
京田と称し知也 権現の社あり 其側に古き 古墳 権現

の社あり是 忠之公当国に愛宕の神社を勧請し 山城乃
愛宕の神を勧請し 毎年是より 鷲尾山といふ
を改して愛宕山と称す 然れども本乃名は鷲尾山なり
至牛山の山乃ふもと 海辺に出崎に一村ありて
古代是を計 残島 民家有 田畠有 古ハ牛の牧
の耳にいふ 有りし也 延喜式にみえたり 脇山乃
御八村 脇山 板原 小笠木 西村 内野 石竈 曲渕
板屋 此八村をすべて脇山の八と云 脇山
村るむかしは 背振山東門寺乃 谷
何々 山への 脇山 院内 といふし 以下

怡土郡

日本紀に曰 仲哀天皇筑紫に下り給ふ時伊覩縣主乃祖五十迹手といふ人長門乃引嶋に参迎へ奉りしを天皇是を称美して伊蘇志とのたまひし故に時乃人其五十迹手か本土を伊蘇乃くにと云 今伊覩といふはあやまりなりと云り

草香江 仙覚か曰 摂津にも有一説に 遠賀郡春田村にありと云

子負原

深江海

怡土濱 以上四所皆深江村なり 公領也

怡土嶋 姫嶋也 田畠あり 民家あり

古名所

雷 雷村の上に有る山也 山乃本 福井村より神社あり ちる岩を千如ちと云 又櫲木の中里陰何とも覺増説にて山なり 神功皇后乃御旧跡也 日本紀に見へたり 又其き種坂の社有り ふもとに神功皇后乃御腰懸石有り

むかしハ神領多く僧坊多し甚繁栄なり　王子の御締
旨将軍乃御教書其外文書数多し今ニ仲坊ニ有
又千手観音古佛也り堂ニ千手有之由名縦なり
かゝりの飾ハ木佛也ニされて中山近仲ハ寄附して
僧坊も今ハ三坊　怡土城　続日本紀ニ孝謙乃
時築くとし天くり
も山様多し
三坂村の上雷山の西ニ有　石をつみ築て所々につきたり
所々山ニ有其中古城のあとなる所し滝の上にやぐ
らの跡有り又遠ニ旗振り場と云所有一説怡土城ハ
高祖山の城の事いへり原田ハ其後ニ怡土此城なりとよ
但をなる　筒瀧　雷山ニ有怡土探をむかし其の流大
一しきる　ある石乃樋山上ニありし其樋より流
ある滝や高山の上より落る流れ高さ百尺もあり其上い
へも滝より流あり山より流れて落る時ハ二三里ニ聞ゆ

純公有り　小蔵山　も野村ニ有り其又昔ハ寺多し　立國寺
なり　今ハなし　公領也
公領乃内庄内乃波多村ニ有り小雲重度云のために原
田種直所建なり今ハ小松原の行脚有て今勤寺あ
寺　一貴山　昔ハ二十坊今ハ寺一貴山村　深江町　公領
也　ニ何もなし　今ハ公領なり
有武家　浮岳　吉井村乃南ニ有也　深江嶽　高山なり
なし　高山也　公領也　公領也
高祖村ニ有　荘内大出見尊と云ふ其の礼云と
高磯神社　三代実録元慶元年筑前国高磯比咩神
従五位下を授らく云々
社の別宮か原田教家也とぞ　高磯山　同上山上ニ原田
氏城跡あり
金龍寺　如意輪観音の堂有り高祖村の山ニ有りしを
近年民家ニ移す如意とい高祖の枝村や滝あり

山中佳境　金龍寺　高祖村にあり原田興種創立原田氏代
有り　　此佳脚に並に墓あり一族同の合葬
ありしよしをうつせり　高麗寺　此所　高麗寺村にあり昔
異国知也　弘安四年蒙古より
日本を責し時博多の浦まて日本の兵これを防ぐ大
風吹きて敵船破損しおびただしく敵兵溺死するに
たくらん粮つきたるを日本の兵之をせめて二万人をとり
けなげもかくれなりし河のかみよりまでこれをとらへ籠居
ころし高麗人のくびをば此所にうづめちなと云て
石をつけたる高麗寺と云　在俗にむかしこゝの寺僧
日本を責しとて此時の事也むかしは蒙古やこゝの
こゝ高麗なりける古より見えかつより日本を責
人まさありて高麗乃王元朝に仰せかされも
加勢もして日本をせめ人まで　高麗よりも兵を成也

此事元史及通鑑
續編にも見えたり　染井山　神社あり熊野権現也
本尊は薬師也佳境也神功皇
后鎧を染し井あり寺号　神功皇后旗掛乃松　染井山にあり
霊鷲寺昔は四十二坊ありと云
本尊大士なり闘ありし木此形甚美好也
又寺の前に古き松あり老松二株あり　安北上　上原村にあり
敷かまへありける祖の塔のうしろまで擱年有二安曇の安
あるつし土民は安曇に思ひ此皇居あとと云こそてに皇后と記
せりと云此所境内の刻の傳安曇ようしかゝされ也
皇居を偲んとしといへる説いぶかし一説怡土城主郎
高祖の城也といへ、高祖の城の東南此ふもとなる　降伏山
原田家臣のやしき大なるをたてあるべし
上原村のおくにあり昔古言也大寺
あまた今はつぶれたる観音堂一宇あり　千原山　千原の一里奥
深山の内也

村あり山高く山　井原川鑵子迫乃瀧
中なりし　井原大塘山　井原
井原村より井原山村へ行道にありて此　だらめき此瀧　左り
流さるゝなる瀧の下　ふかき淵や　井
原山断壁此瀧をよぢこえまかれは　飯場村此上井原山
まや高き岩ありおつる瀧や　水無　乃苗此山谷の内に
行る原や近年民家出来しも此谷は月八日にて二日ありさき
何ら住居よくあり　加布うの所なる　行他出にしり何もし
加別　吉地の高野　曽根原　井原村の西にあり小村より
川しまくかくのことし　小山つゞきてひさき野也一広く
長き原　瑞梅寺　いにしへより瑞梅寺村にあり　七箇寺　昔は
あり　たるやなきの書也
郡中七ヶの大寺なり　雷山　深井山　一貴山　小倉山
怡土山　塔原　久安寺や一説久安寺なりしとも山は也

右七ヶ寺乃内にも　雷山　深井山の寺ありしとも一寺
條々寺なりし者の寺跡のこりのこれ也

志摩郡

昔ハ元寇より前ハ入海つゞきて
二つの郡を隔つ也故此郡と云湖泊
泊なりし云村ありしも昔海道なりし所なる
ゆへ今も其道此国の所にハわきかゝり見ゆる所也

韓泊（からとまり）　万葉集に古き所也　今民家なし

引津　芥屋大門の東にあり　古ハ船入し所なるが
近代ハ田となる一説船越村より卅里の海人漁舟を東に
の海に出す砂を引出して時の風にまかせて漁をする所に
引都ともいふ又引ばかりいふせや　可也山　氣比と似たる山也山上
芥屋よりみるを是にすぐし　佳景也此山を西に見る

にいふ　立石崎　芥屋村大門の西乃出崎也
久家村の東にある所也、　右名所　今津
昔唐船着し所也町屋あり繁昌なりし所也一度ハ町也今と
なりかはりし其所の事　古書にかける唐の書にもなくのせり

勝福寺

今津に有り此寺もと勅願寺也後光厳院御綸旨有し又尊氏義詮の判有り

誓願寺

同処に有是も古き文書多し

異賊を防きし石垣

今津より浜崎村井原村乃濱に松原姪濱海辺迄て之間の石垣何れも砂に埋れり

青木村

小戸此橋の青木の東日向にあらず今地なりといふ古人の語わり但二ケ処分明ならず

長垂山

今の生ノ葉山と云青木村に属す

油坂 青木村

志登神社

志登村に有り是十九社の内なり元禄三年に光之公改造て有り

可也海

可也山の西より入海也在に稀なる絶景なり

御床村佛座乃法床

中華より渡りし阿弥陀佛の身床也此床村に有り此床村二ツ石又此村大塞橋此本所を東西七間南北八間二ツ有見え

芥屋大戸

一山皆岩つゝきにてめぐる所けはしく柱石をならべ立る柱石海上より三十間あまり皆六方なりそうなるもしらのめなり扨て海の底へ入る事ふかさをかり難し芥西なる是より二方内船入の大穴まで二十間侭上船入くおくに陸地又もしいてや在りか随ての所なり世にもまれなる所にあらず奇麗なる所なり

穴背

芥屋乃海中に有りし海中の穴なり

焼塩背

芥屋より三里おきに有り方三町もかりの有海中に岩処々にありて何えるの時龍灯何がり是童祀る處鳴と是元史に五龍山と云へる皆此論也

玄界島

民屋五十四島有八拾

柱嶋

玄界西北未二町許小何是柱乃めぐる石積に積之

釈迦牟尼嶌

玄界と唐泊との間に有し今俗同机嶋と又七ツ…

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』 請求記号 特7-27
ガラス使用

此中乃窟也 其内に洞あり 船にて通ふ 大小二嶋有り 大
づくゑ 小づくゑと云ふ 二崎共に船人は大づくゑに仏
像を石壁に切付有りしと云ふ 数十年前梅雨の時に崩れ
くして今は仏像なし　シロノ蛇嶋　芥屋より北十三里沖にあり　烏帽子嶋
芝文字の裏なり也
芥屋より八里西の方
五町許り 土嶋あり

席田郡

國中にて最小なる郡なり 只八村にて田畠高八千七
百石余 八村皆東山乃すそにありて南北に長くつゞ
けり 金比羅乃前に小尾崎とて高き山より出たる
山の尾あり 其上に古墳あり 古墳あまた有 其前の谷に大く東
西に續きし 前乃山上に在り 古書に席田乃驛
を出て 今は其處 知れず

九九

糟屋郡

ちの今乃ハ時表處ゐ郡より分ち給ふ此郡ハ大郡にて東山海にまたかれりや

香椎

香椎村に社あり神功皇后の御廟なり深々緑枝

産宮

ハ應神天皇ハ誕生乃処也槐木其囲七抱あり八幡ハ誕生の时此木ハ下にて産湯を浴せ玉ふと云神功皇后の八幡大神をうミ玉ふ时れは茂し給へり槐樹あり子安木と云神木やうへうしや

筥崎八幡宮

南国の一宮也應神天皇の御廟なりむかし此地にてよりハの幡ありしかハ八幡と云ふ是ハ子細あるにや

志免しの松

千代松原

あり書に赤旗乃社故を記ありと八十里松とも云筥崎の松原や乃名列に松原ある所有り筥崎生松原、此所々名所やまことに早良の松原糟屋の花見松原杢(?)乃里の松原や

阿部崎

藍嶋や

日本紀に見えたり

【右名所】

仲哀天皇御棺掛乃椎

香椎村に有り神木也此木昔香椎や天皇の御棺の木ハ枝にて香(?)たゝをつるへてら(?)へ神功皇后かへしなる由し

御髪洗乃岩

濱男村海中にあり御沼と云武田村中に有り小川の中の岩や

神功皇后斎宮乃跡

日本紀に有りて神功皇后神主となりいとことありや斯れ神徳を乞れ玉ふ処なり今ハ聖母屋敷と云ふ神功皇后乃御廟坂ハ山田村

報恩寺跡

建久三年千光国師創立聖福ちよると四年前ニ早く立て日本に禅寺建立の初也今ハ寺無く

香椎村

藏塚

神功皇后乃三韓より御帰国の时敵の首を埋め給ふ処也濱男町の東の果乃

鎧坂

同村ニ有り神功皇后鎧を御召あらふと上り給ひし処也濱男より宗田へけり所也

曽塚

鎧坂乃東南ニ在
同時冑を埋し所也　杉山　足利尊氏乃陣処なり　香椎村　箱崎町　民家地

蔵松原　此松原長サ十七丁　因字　黒田　名嶋　ハ箱崎の北ニ在山也
七本松と云　地蔵堂あり

東の方ハ陸につゞき小子川隆景の城跡在　西ハ本丸二三の丸の跡在　神社あり　浮殿氏ハ雑キ天を祓ひ佳景也　海辺ニ帆柱石あり　神功皇后新羅を征し給ひし時船の帆柱なりと云　米一ツ石塔　八松崎　皆行　六本松

浜　名嶋ニ有て神功皇后の御旧跡也　陣乃腰　松崎村ニ在　足利尊氏陣処なり　顕孝寺　多々良村

冠山蘭提和尚山号神威山　昔ハ禅宗大寺也　近世浄土宗となる　僧園月か東海一漚集ニ此寺の事を記せり

月守石　神功皇后香椎より宇瀰の方へ行給ひし時　日乃暮晩を見給ひし所　掛けたる石也　阿恵村　かうさん久原　白山　村の

東ニ在白山権現在し　昔ハ僧坊三百六十坊在　同所下ニ
頭光山と云　今も猶三谷在と一寺もなし　側ニ有

迫門河内　九山より東の方　今宿ハ在　山の辺ニ在　前右衛門十
村なり　高七千石許有て　山ハ今宿　高田

津波黒　和田　大隈　南ハ篠栗　若杉　乙犬　小中也

田中ハ南北の所にて　西中第一の普腰乃地なり

鉾立　萩尾の東の高山　頂平ニして大和の生駒がけ　太
ニ似たり　此山粕屋郡の境にあり　長く見ゆる山也

太祖権現社　神武天皇なり
若杉山の頂に在り　旅石村　神功皇后の御旧跡也
八坂　今ハ何里今ハ
あやまりて多数
寺村ニ似ふ　駕輿丁池　上中原村太宰府　南北百五十六
間　東西三百間許　[illegible]二
間五百許あり　側ニ駕輿丁　八幡　長者屋浦　長者原
ミて社有　此所ニ池の名に残

下井原村連理木　村中に志賀の神社有り其前に大なる
楠並又榎の木あり楠と柊と名ある
樹の内より一本の連理となりし事凡三所同樹の連理は世に
多し此樹は他樹と連理
まことに見がたき事なりといふ遍く稀なる也　須恵河内　谷中にて凡八村
恵下　須恵　栖本　栖石　本谷　酒殿　本は花谷上原
上下　めけ　此河内は宇美　宇美乃河内　中村　村のつゞき
河内の上にあり　凡九村有り
宇美　井野　田富　吉原　長気　上里　炭焼　障子岳
別府　東より北にむかふ村のつゞきなれば次のとおり　楊梅大木　左谷
村に在り其の周一丈五尺　頭巾山　宮所より東北の方四家に
至り下二百二十五丁許有り　都合　高き山や
槻ヶ河内　此中の北の方にある高山や其下　砥石山　つきの河内の
の谷の前の北に見ゆるや　北なる山也

鬼ヶ城　砥石山の北に有る峰　若杉山　鬼ヶ城の北の方に有る也
より二つある　昔此葉の寺並僧
坊がほらのありしと云　左谷　右谷　北より東谷あり
ありしとや　今は左谷より村並右谷には武家屋
ちる村里に台字や伝教大師旧跡や　三花山　小北葉に榎落
おぼしへ三十六坊ありしといふ　太宰府　唐の書にハ白
沙塗と云へり
新宮　新宮港神社あり　左題　詩に住吉の神ありと云へり　康府池　康府村に大池や
鳥池　唐内村　唐内川　右は春の水城をめぐりの所下
大池や　座頭坊の久保より流れ返る
園まま　花見松原　唐内村に有り東園五処　須恵原
何里　松原の一や　花見山　有り
唐内村に有り横十四五町　縦　藍島乃洞　藍島の沖中にあり
廿四五町

小かなり 此岩ハ皆柱のごとくなり 石を立たるかなり 其内ニ
大なる洞あり 其中を船よく通るめづらしき所也 俗ニ
是を船ぐりと云ふ 又蓋崎 此辺の海辺ニ大なる
岩窟あり 船入る也

宗像郡

鐘御崎 織幡山の山の麓なり 昔より **小屋形山** 鐘崎
海中ニ大鐘沈み有とぞ

海中道 勝浦村と梅津との間 **桂潟** 勝浦村の西南
なりて七十町ほどあり 在 の方の海なり
又ハ皆新田となれり 一説ニ糟屋郡奈多より西戸崎と
の間を海の中道と云ふ 是ハ小説なり 何れ
の事なりや詳ならず **千潟** 荒津 **宗像山** 赤間
是ハしほりの云所ならし

名児山 田島 **荒船御社** 鐘崎 奥の **蒔生浦** 福間とは 屋崎の事や

大嶋 此嶋ニ宗像三神の内 湍津姫の社有 **奥嶋**
民家あまた有て町をなす 漁人多 田島 阿里

十七

民家なし国より北に浮る島なり此宮に市杵嶋
姫の神を宗像三神の一なり安芸の厳島の神と
此社なりと御詫を此神威甚厳しく諸人のおそれ
て祀のことを甚し故に此島に至る人は諸の服忌
あることを慎みさびしくて物いふを至て禁す又人清浄を
禁す佛氏の事を言ふに皆つゝしむことをあつかへと忘
祠あり社人は常は大嶋に居て祭祀の時のみ大嶋より
至る二十里ばかりの風波あらくおそろしき所なり此島
の祭祀所にまれなる奇絶の所也
鼓岩御門(ミカド)柱小屋宮など云奇境有 右名所

宗像社三座 此神は天照大神のうけひて三女田心姫
湍津姫市杵嶋姫のよし日本紀神代
巻旧事紀古事記に見えたり此三女神の御神奥
津宮中津宮海濱の三所におはしますと云ふなり

奥は大島のおきつ島也中は大島也へつ宮は田嶋なり
大嶋奥大嶋はすぐに西にあたれり此三所の神をすべて
宗像の神と云姉妹(アネイモト)三神なり紀第一第二第三の次第
何れ日本紀旧事紀古事記の説まちまちなりいつれの神いつ
れの地に坐し給ふと定めかたし但宗像大宮司乃家に
所又田嶋の社人の云伝へ侍るは田嶋の社を第一とし
田心姫と次大嶋の社を第二とし湍津姫と是おさまれ
嶋の社を第三とし市杵嶋姫と次今案するに田嶋の
社は田の辺りに近ければ田心姫とし大嶋の社は其の川
のさまに近湍津姫としおき乃島の社をおき
津といふなり古き相殿の中には市杵嶋姫と称するにや
三所ともにいづれも三神をまつり一神を主としたる也沖しろ
祭る二神を左右に添と此三神にて照大神の御時より
此所にくだりたまひ天子の御本をまもりたまひ天孫の

同し　五佛堂　鎮国寺に有て名代の古佛
五世よりいれ有る奇佛あり　石佛乃阿弥陀
田野村に在小松原にところより　宗像大宮司先祖の墓
所しるし堂一体有と
所　同処上高宮に同し先達古刀　牟田尻山上の石窟　二十
矢根なと多掘出すよし　堂や
許有　鳥郷　同処原野の郷　孔大寺山　宗像山や社有て後
て　居の里以上八里　神は吉野の花
王権現也と　宗像大宮司正氏内室及其女子之墓
以了　山田村に同し此婦人罪なくして宗像乃家臣によりころされ
其亡霊甚たゝりをなしけるを有志の子孫皆諸寄より
同地蔵　同所ニ在后人其霊をおそれ　江口　船入　昔は深かりし
て地蔵佛をたて　里

宗像氏貞墓　上八村　織幡神社　武内大臣の廟や
三代實録に見えたり　鐘崎　住跡を祀るとす
まさしくいれ神の内なり　勝浦　同大塘　東西四町南北二町
もう七谷　勝浦嶽　神功皇后の　牧山　村
同し　在跡のよし　敷嶋　同所　古跡
の形に似　楯崎権現　同　津屋崎　町有民　宮地嶽　神功
より　処　家多し
皇后御着　飯盛の峯　大道の東にあり　牽牛織女社
跡のよしや　内殿村に同し
大嶋の南の海辺にあり　両社乃間ちての川なかれる川の南
社なる牽牛星南を織女と決　石見の女式にけれとするを
のとまり古今集　業平朝臣　此二社のことをよまれ　天の川　同上

観音ヶ洞　大嶋（嶌）に有、大洞也、入口ハ小舟にて入るべき程なり、内ハ広く、左右七八間有、奥くまで十間許の

勝浦　民家二三軒有

地嶋　民家有

遠賀郡（ヲンガ）

海辺にそひたる岡てさかる所を岡乃湊といへれハ、是よりして名つけたるめづらかなるし

芦屋　民家多し

岡湊　芦屋の古名、日本紀の神武紀、仲哀紀にみえたり、神武天皇日向より東に赴給ふ時、先此所に泊り給ふ、仲哀天皇神功皇后もここに来り、岡より入給へり

韓渡　内浦

垂間野橋　山鹿と芦屋との間にかけし橋なりしとぞ

浪懸岸　山鹿に有り、岡の湊の北、舟乃能の方に有、山鹿より四町ばかり行けば、大浪かけ小浪かけとて二ヶ所あり、西北風に浪の高く越して岩にかかる所なり、古哥（かはし）大浪かけ小浪かけは潮のみちくる時波かかる、小浪かけまで潮の満くる時ハ水に浸りて見えず

五七

大渡川　若松乃入海の口なり遠賀川の末三坂といふ
ありり西岸を宿けなへ右の外又三郎丸の
方にもまたの外ろ若松に添出ろ流れめくるれを大渡川と
いふなるに日本紀仲哀天皇紀に名をる大倉主
阿るも此の海の口なり文
貫らくの歌に出る

右名所

岡田　熊手村の内山
言ふ所にあり

古事記に武て皇子お守佑より筑紫の岡田の
至り一年が滞をことあるやり黒け水門まで
日本紀にも此気ありて一年といりつしまや
一説に遠賀郡芦屋乃神社の辺にありといふ

名籠屋　村にあり 鎮

又日本紀八巻に　河鮃鳴　若松にありといふ
有り

資波嶋　同上此二嶋筑前国風土記
にありり日本紀にも八巻に紫嶋といへるも此嶋なりしといふ
若松戸畑の方に阿る中嶋といふ西なるをいふ嶋といふ

四倉山　遠田村尾倉村の上にあり郡中第一の高山なり四
倉より松山へ行き松山より帆柱山へ行きし
けるに此山のならびなる高山や此山の後に中北河内吉田
やといふ村より大蔵村の枝村まくら谷の上に出る中の河
内の大蔵よりも一里田代の河内より六町あまり前田
代筑前田代こそ川を下りて同谷乃中にありあ谷の果なや

帆柱山　黒崎より松山　一の瀬の上に　鳴水の岩屋　鳴
あるる山や　あるる山や
村乃上に山あこる山に大いなる岩屋ありし人のこもりし所にれ
阿り次大岩の内自然の岩穴ありひろさは八畳あまりありて
家許多宛為し其内に乱世の人のかくれが
とせしは虫や八九十入のくも阿る里ある穴なりといへり

皇后崎　熊手村と穴生村との間にある海辺や神功皇后
の洞の海を通りありし時ここに留り給ひけるや

嶋郷 山鹿よりも岩屋まては近き也 此里 横一里 村数 二十ノ四ヶ所

畠高七千石 有岩屋より海士住まて入海の東西
の[illegible]より北際にそうて其先大國や海士住より山鹿道の
面に海の[illegible]島也とし いとも長き潮なり 四五丁許有
て潮の海と云 かくの如くなる海ある他方まてはくはる
又まさなり 仲哀天皇 神功皇后の御時まてあり 征伐
の時 仲哀天皇は 山鹿の岬より関の水門より入給ふ 皇
后は別船にて かしこの洞の海より入給ふ 中日 東代小工
之給り海士住より芦屋道の島々を過て洞の海に
いつる所 通し皇后此の船潮干にて行まかりし
[illegible]海士住乃新村の辺新田の七所田と云 [illegible]
村の里を いふ岩の潮ありけるにて船すはつまるを
まさりしをむかしより いひ伝へまりまし 村居ありし 二丁上の
山平らかなるに古松三株あり是を御輿かけ乃松と云

此所 神功皇后の御輿をかけし所なりと云 思召池を佐
りしかと 此山乃下今の新村の辺なりん 皇后潮のみ
ちし 首出給ふ 此所にそまり [illegible]の何[illegible]を入へく
御[illegible]とすさめ [illegible]御輿をかけ給ふ [illegible]
しかや古老三株の内 二株は大風にたおれてとも
一株のこのこまり 将今の村の名[illegible]
左に志るすかのし 岩松 修多羅 藤木 二崎
島山 蜷田 竹並 海士住 有毛 大字屋
乙丸 惣割 山鹿 柏原 岩屋 安屋 猴田
遠賀村の内 山より東乃方内海の
小嶽 脇浦 小石 此七村は山より北海の遠賀川

安徳天皇行宮乃跡 山鹿此山上にあり 今[illegible]

山鹿兵藤次秀遠城跡 堺より艮の山[illegible] 山

山鹿 板[illegible] 并 石橋 柏原乃 [illegible]西

六九

の方に小岸有り堂山と云。堂山より西に又小岸有りて堂山
より三間ほどに岩有て潮入ぬれ共干潮に橋の如く石
橋の上に横木。海中にせり出たる岩也。長さ三十二間半
横十二間半有る也。恰も橋木の如し。石橋には所々穴
側に有りて一尺五寸より長さ丈余 小西より三尺ずつ人
此所を橋の如しとすにて上すくく　洞山　是又柏原乃
人力此所に作りたるものの境地なり　堂山の東
洞乃長さ三間半より二間。長サ十一間有り。南北ヘ通るを見る　山
洞穴中を人通る事ある
鹿岬（ミサキ）　岩屋崎とも云。日本紀に見えたり。今は　馬浦　横
山鹿乃民家より八一里許に有り　十
向除も百間半有り。西の前や岩屋浦の前のしまなる境也
烏帽子岩　岩屋の東に海辺に在　逆見浦　岩屋と相向
其形烏帽子に似たり　その間に在

潮のかゝる所なり。日本紀に逆見の海を堺の一つとすとせは西
の事にや。一説に逆見の海は志摩の國に有りといふ。内海
また八庄の江に繋のうちなるに
有て逆見津の上となり　洞山　脇田乃西に有り　山鹿の洞より小岸　白鳴
脇田脇浦のかきつ有る二つ有り。東を雄岸と云。西を雌岸
と云　二子嶋　岩屋崎の辺の二つ村の南　石峯　家本村の
入海の内に小岸二つ有り　上に有り
浜にそはて一　庄乃江　大島・庄村に在。小川にて海に出。村（住）との方
のなる山や　有り。此辺に岩松と芦屋の入海の潮
境なるを外海乃潮境逆見津の上となり
子忘の橋　大島庄村乃南乃入海に昔橋有りしと　大閤水　小
以今の有しを思出の松を立松也
村入海の辺に有り。其傍に太閤の飲みし水と云。清潔也。庄村
の酒あらき社をとて、酒をとの所

洞海 海は若松より浅川村の西大川へ出る所あり 狭き也
五月まへし一郡の界にて此所通りあり 船通ふ所あり
日本紀に 三頭 遠賀川の芦屋の川と洞の海若松此所へ
有り いはゆる三頭とは 所なし 山鹿と浅川との
間也 芦屋より 大倉主菟夫羅媛神社 芦屋にあり
十町計り東にあり 日本紀仲哀
紀に見えたりしこれ 岡の松原 も一里東南国の所 高倉の社 神功
祇園の社これや 松原の一なり
皇后ここにつかれ植させ給ふ 大歳神社 所乃浦にあり 古ヘ
大木土なり 有りけるに唐泊弁財
賀の無手村にも 御牧 同上昔の牧の跡なりけり牧
大泉の社有りも 土民云に賀此あたりお国をそこより経て大河の
賀塀川 此川は中間村より黒崎の方の方に塀を湖入の

川なりとて今あり流れて浜れの時郡有積あり 鞍手加
磨穂波鞍手郡より黒崎へ吉田より此所に通道有れども
運道自由ならぬ 諸人の為なり有し 木川に堀り
芦屋へ海なれ 芦屋への通道の為に堀るべし
さて元和六年ありて 逆見しける年々に余て
中間村より岩瀬吉田折尾の山間まで 掘り経たる元和
七年正月より 同九年 土民云に逝去の時まで凡三年
掘りきたりて至りし日しかるを中に通ずる事なしと終に
切れたる人力の及ぶ所にあらず 古ヘの如くや今土俵に成り
吉田村と折尾村の間此山間に大岩多くありて為しがたく
岩瀬 岩瀬村今も有り又吉田村と岩瀬村との間にあり
いにしへ云ふ所にも有明天皇上宮鮭倉へ行幸の
時かくまへしと云あり 日本紀に出たり 吉田村に車返
ここに遊へ行けるなりし又石瀬ともいふ の名残の地

四七

延喜式ニ　香月七郎則宗カ屋敷　香月村　蛤殻畠（かいがら）
見えたり
楠橋村一町四方の所ニ蛤かいがら多くあるゆへ
名とせり　海邊ニ四里計り隔つといふ　土生村羅漢
石佛
多し

鞍手郡

一瀬山　高山や　莽嶽　笠田村の上ニ至て高山や　尺乃嶽　莽嶽の南ニ至て高山や
福智嶽　枝野村の上ニ至て高山や　若宮河内　竹谷中をニ若宮と云　又水原村ニ若宮
八幡宮何れも仁徳天皇の御社や十五村何れも　倉久
四ツ丸　上五ヶ木　下五ヶ木　芹田　東田　金丸
水原　竹原　高野　平　黒丸　山口　福丸
稲光
吉川河内　五村ニ下村　湯原　脇田　乙野　小伏や　若宮
吉川ハ同山中ニ何れも三ヶ月ニ　小倉原至下河
清水山　黒丸村ニ至観音堂あり　いと高き所なり　若宮吉
川眼下ニ見ゆ佳景や　古寺の跡や　若宮河内の内
なり

大鳴山　深山也　杣木多し　吉川・河内の河上也　精庭の猫脱へ
細避ぶり　織田村に属す　近辺紙を漉き炭をやき
陶器をつくる　鈴場　劔山の東　瑞石寺　丹楓山といふ所
竹谷なり　こゝる山なり　けいを横谷と云
今は村に属す　禅寺也　行基の民家数軒有て里に遠し
山谷乃おくに有り　其後乃皇由福寺の末寺なり
大賀畑　深山中山峡の間　四里許東にあり　西て小村也
小川（かわ）芋柄（かゞ）　畑五郎が谷有り　これより奥に　ふゆき開也し
せどき谷中也　其川上は穂波也　八木山なり　川下は宮田
村に出る若宮　天照宮　磯光村の東　大社也　もうしき
吉川の川上一に有る　同郡笠の木山に有て此里人
一ノ尾三代宮祝は此所に住る　直方　寛永元
身年を此所の事なるか　年御く

長政公季子黒田高政公乃居邑を東蓮寺と云
新八村乃境内なり　延宝三年に改て直方と号す　元和元
し年なり元禄六年に　山田村乃境山を云ひつ
至まて凡七十年　吉野山　山上に石主権現有　和泉
吉野の蔵王権現を勧請して近代佛となりし時西乃
方の山に権現の社を立てしとそ　此山を吉野山と
云ふ　此一の王子形を安す　其道の山村　中山と云中
至吉野とりいは　國村なり　屋寺
在山上に劔大明神を立　中山村より　劔ヶ嶽　山村乃上に
の方迄八町計　河道　長谷寺　新入村知
まあらてい一寸　古き者のよし　此一里よ子女王櫓まてし　其所一株あり　列せ寺る
枝がけ柄本何名よ　寺まよまき大有り　古数何名
植木犬塘　植木村　蛤殻島（かいがら）　下木付村　其がり多し　其し
海邊ありとし　元禄いぶ

嘉麻郡

小斗社大楠　下中益村にあり　大隈の町の道也此木は乃周り十五抱ある内のうつろなる所方二間半ありて我誦同志多く歴覧せしか屋々の大木の楠にかゝる洞ある木にも未見侍らす洞

岩瀧　下益村

安國寺　下山田村に有昔諸国に一国に一ケ寺つゝ有し寺也佳境也

庄内河内　当郡の東にあり一谷の中にあり南方に小山あり此河内と東に中堺し豊前此田河郡と小山有り此谷より此河内に凡十三村あり高六千石余谷の一流ありて東に当る山田清にて十三村の名　佐与　元吉　大行事　有井　仁保　籾田　安国　綱分　山倉　入水　高倉　赤坂　筒野也

馬見山 秋月古所山の東面よりつゞきたる宇土浦山 宗村乃上
尺村より有る山なり
またー名尺山の東面よりつゞきたり古所なる尺と 五百羅漢 石佛あり
三の山つゞき絶中此山なだらかなし
今は三百四五十年ほどいつれの時何人 京野 嵐翁の川上
作りけるとぞ 山堂村より何里 最甫よりま
谷中に五十谷小北谷とく(?)あり村何里 さらしかけのまの 鹿毛馬牧
上座の小石原に越る道何里 英彦山 嶽ともいふ
鹿毛馬村より五里 山のめぐりに石垣あり 四箇銅 梶畑栗野 なる畑 撒畑
古の牧なりし ところなり
を云泉河内村乃
枝村なり

穂波郡

大分八幡宮 日本紀に八幡大神を示現まつりし所の一
なり 神功皇后應神天皇ふたはしらに
こゝに鎮座あり 日本の宗廟 八幡宮なり 乳呑坂 八幡大神 誕生の時
御代よりうつされしや
誕生の事より此所を通りたまひし 此坂にて乳をのませ
日本にも同じく大口と云所あり 内住村乃枝村十
郎畑といふ所に山を 神功皇后御腰掛石 内住村
畑にて腰かけ給ひしや 大
内住村乃枝村なり 大分村へ行道乃山
野 岩に松樹おほし 此所は京より近し山をかさね
甚よし 花立乃瀧 三百ばかりめぐる 龍王山嶽 二名山や
なし 内住村 八木山村

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』 請求記号 特7-27　ガラス使用

天狗岩村　八木山　千人塚　八木山　高落滝　八木山村乃下筒大賀
畑の中にあり　寝手山嶽　内野村にあり　飯塚　飯塚村に
雛あり　なし　高山あり　明星
寺建立の時飯をつきし　あつめ　合屋河内　二所司　伊村　津尚
ともありといふ　植松の四村一谷
同流の内なりと是を分して　合屋と以前高尾の陶器焼ハ
鞍手郡内磯ともに焼く　寛永九年の比かひよ是合
屋の代伊村の白旗山にて三十余年是これを製を利
三度上座郡鼓村にて製せ存ふとハ伊村にて焼ける
米山　古寺府より飯塚へ通る　明星寺　古寺や勝光上人再興
道あり昔の大道あり

下座郡
美那岐那社　林田村にあり　みな那岐村　鬼の
ともいへり十九郡乃内
竈　堀村にあり大岩　矢野竹村大宮　二月上卯　左右
あるといふなり　二月横につる
十五町の　桐の久保川　十五町の間秋冬
ともに入るふかきいくさもあり　多かりしも春ハあり
減ると　粕屋郡志摩晴川とも云　美奈木乃渡　其田村にあり
同し他所にもけれど　三城ハ此
の名や順和名抄見えず　けふの事太宰府にて
御笠郡の出城なりしを

四八

上座郡

朝倉山 須川村 木丸殿 同 右名所 斉明天皇行宮の跡 須川村ヨリ朝倉乃宮木丸殿の跡也 宮野と云村より朝倉のうちなり しれ子名日 きのなりし

同御陵 海つぎ此の陵ハ大和ニ阿り

恵蘇寺 宮野村の内ハ 坂ノ上直言宗有古寺の旧住境也

麻氐良布神社 志波村乃上麻氐良山ニ阿り信階在昔ニ阿り三代実録ニ見えたり 筑前十九神の内なり

香山淵 志波村

欅ノ大木 志波村ニて七日そて下廣方十丈 郷人桜なり枝葉繁栄し花咲後

普門寺 同村

在るなり

把伎　把伎ハ郷の名也　此和名ニ有り　昔ハ此恵村把伎大明神の名ニ帝を並ぶ　近代

志波村ニ立て毎歳二月廿七日より三月二日まで　上寺村　朝倉
まで市立ち近国より諸買来て何つまる　生葉
竹野郡と朝倉の境ハ大河を限とす　御笠川村を
大河より向ふまでは上寺の南の方ニ大河有り　瀬の川
??のつゞける洪水の時上寺の水を大河へ流るゝ　通り
村の南方ニ河を　桂川ニあり　故　御笠川の堤ハ　上座山
高き堤也　此辺ハ此村の外　大河の向ふ

中　佐田　佛谷　黒川　小石原　宝珠山　鼓　宝珠山乃又村ハ並ニ
大山也　皆深山　美谷の中ニ有れは国中最　佐田
深奥乃ニ有るなり
山　深山で有るなり　材木おほし　佐田村ニ麓をすべ　鳥屋山（トヤ）

佐田村ニ有り上座　佐田山の内ニ有り　民家おほし
郡中第一の高山也　佐田村　大なる社有　大欅　連理
木も植ゑ　○安倍貞任十三代の木像　佐田村ニ
至今ニ　村中ニ貞任の末孫おほし

佛谷　佐田村乃支村なり　佐田の下流ニ有り　黒川
材木おほし　深山の内なり　通り常ニて道筋ニ
屋の中を通る所　花瀧　鼓　宝珠山　深山美谷の
立ちて屋中ニ佛有　村　内ニ有る村や
村よりも遠きに上に大岩乃下ニ岩屋　小石原　秋月の下
権現有り　寿福有るなり　深き村
より谷のつたえのぼる事五里　其間谷せまし　此村ニいたつて　坤
谷広くし　此村の地形高くて高し　此地陽里の中央　四
方の里ニ遠く　山上に至る　四方ニ山より見くだし　英彦山
一り　通路や　嘉麻郡へも　宝珠山へもよし　秋月　江川

四八　終

の川上より行者壹河を求乃岩とく山伏の宿せり
本河り此邊大河なりし天明の頃ゟこゝなりし

中野 小石原の東に河を越して和三郎の〻けて
また陶器を作る今も作ることの陶多し

筑前續風土記畧　畢

校閲了

特 7 27

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号 特7-27
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号　特7-27
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号 特7-27

ガラス使用

特7
27

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号 特7-27
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『筑前国続風土記略』　請求記号　特7-27
ガラス使用